

大イノコ祭り 祭りが人と地域の技術、文化をつなぐ

レポーター ひろ記者 津森正裕、高村秀樹

旧暦10月の上の亥の日に「子孫繁栄」「商売繁盛」「五穀豊穡」を願い、子供たちが縄で結んだ石で地面を打つイノコ(亥の子)祭り。広島市内を中心に、中国地方、愛媛県、九州地方の一部で行われている土着的な祭り。旧来の祭りに



▲石原悠一さん

「大イノコ祭り」を支える市民の会

90年代初めに袋町公園周辺の商店街が主となり、地域の住人と一緒に大イノコ祭りの原型となる企画が行われていた。しかし、経済的な理由で90年代後半には途絶えてしまう。2013年に、地域の文化活動を行う団体や、商店街、幅広い専門家などで構成する「大イノコ祭り」を支える市民の会」が中心になり復活。最初の2年は助成金を活用したが、2015年からは竹主(後述)を募って運営する仕組みで現在に至っている。

「88本の孟宗竹で、重さ1.5tの大石が宙に浮く」石動

袋町公園に円形に立てる88本の竹(長さ13mの孟宗竹)と中央に置いた約1.5tの大石を縄で結び、その張力で大石を空中に吊り上げ、地面を打つ。照明も駆使してアート作品にもなっている。

竹主と竹の活用

石動で使用する88本分の竹を対象に協賛を募り、持続可能な仕組

みを図っている。市民の会の組織団体だけではなく、広島県内外から団体個人を問わず幅広く有志が集まる。祭りの開催とともに、県内竹林の整備も行って石動の一部に使用しており、竹炭、竹トンボ教室など、活動の幅を広げている。



コロナ禍の2年間は、オンラインでの配信を行なった。つながりを途絶えさせないために、過去の画像、亥の子巡行の様子や大イノコ祭りの歴史などを配信。

昨年11月の「大イノコ祭り」には、延べ約180名が運営に携わり、2日間で約9,500人を集めた。

祭りは「祭りに関わる一人ひとりに輝く場、楽しめる場を提供する柔軟な器」「祭りにはたくさんの技術が必要。それぞれ得意な分野を担うとともに補うことや意見交換をすることで、世代間の交流が生まれ、知識や技能が伝承される。」と石原さん。

防災士でもある記者は、祭りを続けるコミュニティ力は地域の防災力にもつながると再認識して取材のカフェを後にした。

「ひろ記者」とは、市民自らが地域のまちづくり活動やイベントなどを取材し発信していく、広島市の市民レポーターです。

▶ <https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/14/7197.html>



らしくコラム

Rashikoku column

大学生による地域活性化の取り組み

コロナ禍は私たちの日常や社会活動にさまざまな影響をもたらしました。地方創生や地域活性化の観点でいえば、幸いにも、地方観光地の多くはコロナ禍以前の状況に戻りつつありますが、以前から指摘されていた問題も再認識されています。この中で、今、大学が果たすべき役割や、未来のリーダーとしての大学生の役割が注目を浴びています。例えば、広島県宮島地域は古くから由緒ある観光地として世界中から多くの外国人観光客が訪れる一方で、近年は外国人観光客の受け入れ態勢や観光公害などさまざまな問題を抱えています。このような問題に対して、地元大学生による新しい取り組みが行われています。

広島修道大学の「地域つながるプロジェクト」は学生主体の取り組みとして、地域の課題を解決するための活動を通じて、地域社会の発展に貢献できる人材を養成しています。同プロジェクトは2010年に始まり、2023年度で14年目を迎えました。2023年度は9つのプロジェクトが採用され、「宮島観光活性化プロジェクト～観光と言語がつなぐ地域の輪～」はその一環として選ばれました。このプロジェクトでは、宮島における外国語標識・看板の不足(あるいは過多)等の問題の解決策の検討や地元自治体への改善・提案を通じて、地域の社会課題の解決に貢献することを大きな目標として掲げています。具体的な活動としては、言語標識そのものの改善をすぐに行うことは難しいため、まず、地元の方々や外国人観光客との聞き取り調査から、英語よりも日本語によるコミュニケーションを希望する声が多いことを明らかにしました。これを踏まえ、宮島中江町のブログ (<https://chue-pj.com/blog/>) やフリーペーパー作

成において、「やさしい日本語」(外国人等への情報提供を目的として簡単にわかりやすくした日本語)を適用して地域の魅力を発信し、言語の違いに対する理解を深めました。また、地元の企業や自治体と連携して「ちゅうえマルシェ」を共同で開催し、地域の特産であるレモンを活用したオリジナルドリンクを販売することで、地元の歴史や伝統と現代が融合する中江町の魅力をPRしました。

コロナ禍中はリモートによる打ち合わせが多くなり、もどかしい思いをした学生も多かったはずですが、だからといって、できないことに目を向けるのではなく、学生は自らできることを模索し、今の自分たちが置かれている環境を最大限に活かすことで地域に貢献する道を見つけました。結果として、コロナ禍によってオンラインツールの利用が広まり、対面活動だけにとどまらない活動内容に発展しました。上記プロジェクトのリーダーの4年生は、最後の1年でしたが、イベント告知の一環としてFM廿日市や広島ホームテレビにも出演するなどの活躍も見せました。彼を含む学生たちの今後の活躍に期待します。



Profile
広島修道大学 人文学部 英語英文学科 准教授
石田 崇

筑波大学大学院人文社会科学系研究科博士課程修了。博士(言語学)。専門は英語学、日英語対照研究。主要研究テーマは理論言語学を用いた言語間比較、英語の名詞修飾および形容詞派生。

ようこそ! 公民館へ

～中区内公民館～

地域のみなさんの学習活動を応援する最も身近な施設「公民館」でまちづくりに関する活動をしているグループをご紹介します。

1 シニアコーラスKIKO

中央公民館

平成11年頃に定年退職後の集まりの中で結成され、会員数20名前後で活動を開始し、名称を「シニアコーラス KIKO」と名付けたようです。発足時には活発に活動しており、結成記念として「アステールプラザ」で盛大に発表会を催し、公民館での活動にも積極的に参加していました。また、各種保養施設・老人ホーム等への慰問活動をしていましたが、残念ながら新型コロナウイルス感染症の影響により活動が現在でも制約されています。

当初は、男性会員で運営していましたが年々減少傾向にあり、令和2年には会員数が2名となってしまいました。中央公民館に相談したところ「歌の広場」を開催することになり、当日に会員募集した結果、現在では女性14名男性1名で活動をしています。会員の人数も増えたおかげで、活動内容も充実し、様々なことに挑戦できるようになりました。木村美子先生による熱心な指導をうけ、「日本の抒情歌」を中心に、会員からの希望曲があれば、話し合いのうえ、曲目に組み込んでいます。活動日は原則として毎月第3月曜日午後1時半より2時間、楽しく歌っています。

参加のご希望があれば大歓迎です。活動日に中央公民館の2階研修室4にお越しください。みなさんのご参加をお待ちしています。



2 コーラスつばさ

竹屋公民館

平成10年(1998年)、竹屋公民館主催

「コーラス入門講座」の受講をきっかけに誕生したグループです。「コーラスつばさ」の名前は、この時に練習した『翼をください』に由来しています。結成から25年にわたり、公民館まつりや敬老会など地域での活動や発表会等を行ってきました。

そして昨年(令和5年)、結成25周年を迎えるにあたり、多くの観客を前に流川教会で「25周年記念コンサート」を開催することができました。この記念コンサートの開催により会員みなが喜びとともにやりがいを感じ、これからも更なる上達を目指し努力していきたいと思っています。

また、活動を通して地域の方たちとの合いや、色々な勉強をすることによる仲間づくりも大きな楽しみの一つとなっています。これからも地域に開かれた生涯学習グループとして、励まし合い、楽しみながら活動を続けていきたいと思っています。興味のある方はぜひ一緒に活動してみませんか。きっと充実した毎日が送れると思います。

活動日: 毎週木曜日 午後0時半～3時半



3 吉島そば打ち倶楽部

吉島公民館

吉島そば打ち倶楽部は、基本的に毎月第1月曜日の午前9時～午後3時に活動しています。メンバーは、講師を含めて約12名。そばを打つために必要な道具は揃っていますので、活動する際に、参加者が持ってくる物は、打ったそばを包むキッチンペーパー、それを入れるバック、保冷剤を入れた保冷バック、手洗いや汗を拭く時のタオル程度です。国産の厳選されたそば粉を使用し、つなぎ(小麦粉)とそば粉の割合は、2対8、いわゆる二八(にはち)そばです。

私たちの活動で大事にしていることは、「楽しく、元気に、そばを打とう」です。おいしいそばを打つことは、もちろん大切ですが、体調を崩す打ち方をしては、楽しさが半減です。そのため、姿勢や体幹を意識し、力みすぎず、リラックスして打つようになっています。

参加者の打ったそばは、友人や家族にふるまい、好評です。さらに、毎回そばに関する歴史や栄養などをまとめた「一言メモ」を配付し、累計で100号を超えました。昼になると、参加者は講師の打ったそばを味わいながら、

話の花を咲かせています。



4 舟入空手教室

舟入公民館

舟入公民館で活動している空手教室です。空手の流派は和道会です。

活動日は毎週水曜日。3階のホールにて19時から21時まで(小学校低学年までは20時半まで)。

現会員は園児から小中高校生、大学生、一般社会人、男女問わず6歳から60代の方まで幅広い世代で活動しています。世代を超えた交流を図るため大人と子どもは同じ時間帯で一緒に稽古をしています。

夏と冬の年2回行う昇級審査会を目標に稽古に励んでいます。希望者は年数回ある空手道大会の組手競技・形競技に参加できます(組手には防具が必要になります)。

毎年11月に開催される舟入公民館まつりでは舞台ステージにて演武(試し割り、形の演武)で参加しています。

稽古内容は補強運動から突き・蹴りの移動稽古、空手の形の稽古、約束組手などです。稽古をしていくうちに正しい姿勢、バランス、重心移動が身につくと思います。

一カ月は体験期間にしていますので子どもだけでなく、大人の初心者の方やコロナ禍で体力が落ちた方など遠慮なく舟入公民館に来てみてください。



グループへのお問合せについては、各公民館へお願いします。

- ① 中央公民館 …………… ☎082-221-5943
- ② 竹屋公民館 …………… ☎082-241-8003
- ③ 吉島公民館 …………… ☎082-246-4121
- ④ 舟入公民館 …………… ☎082-295-5003

名人宝人 達人

Interview 1

さまざまな分野の達人たちが登録しているまちづくりボランティア人材バンク。地域活動やまちづくりのお手伝いに、今日も、あなたのまちを達人たちがおうかがいしています。

ハンドメイドクリエイターグループ菜花 代表 かみお ゆり 神尾 友里さん



▲神尾友里さん

季節の移り変わりやイベントに合わせて さまざまなものづくりの楽しさを広める

子どもから高齢者まで、年齢を問わず楽しみながら制作できるハンドメイドをモットーにワークショップを開催しているハンドメイドクリエイターグループ「菜花」。パステルアートや粘土細工、スクラップブックなどさまざまなジャンルの作家が集まり平成26年に発足しました。代表を務める神尾友里さんは、ポーセラーツや羊毛フェルトの作家として活動する傍ら「作家たちの活動の場をもっと広げたい」と令和5年に人材バンクに登録。まちづくり市民交流フェスタでの作品展示をはじめ、上温品小学校PTAや、皆賀公民館でパステルアートやしめ飾りのワークショップを開催するなど多くの人にハンドメイドの楽しさを伝える活動をしています。

「ものづくりの楽しさを感じてもらうには、完成までを作り、達成感を味わってもらうことが重要」と話す神尾さん。そのため、



▲介護施設の利用者が作ったブローチ

菜花では、誰でも簡単に30分～60分ほどで作品を完成させるワークショップを心掛けています。完成した作品を前に参加者からは「自分にもできて嬉しい」「手づくりは愛着が湧く」などと満面の笑みを浮かべて言われること

もあるそうです。

定期的なワークショップは毎月1回、事前に決めた土曜日に、南区民文化センターで体験会を実施。季節の作品を、粘土細工、羊毛フェルト、フラワーリースなどで制作することができます。毎月楽しみにしている参加者にはリピーターも多く「皆さんの笑顔を見るのが私たちの励みにもなる」と目を細めます。

「今後はコロナ禍で中断していた作品展の再開や、イベントへの参加、公民館での活動を精力的に広げていきたい」と話す神尾さん。それと同時に一緒に活動してくれる作家も募集しているとのこと。「趣味だけで終わらせるのはもったいない。その技術を披露できるお手伝いもできれば」と作家の輝ける場所も大切にしています。



▲子どもたちがパステルスタンドグラスアートをする様子(上温品小学校PTA)

- 丈夫です。
※紹介申込書は、人材バンク登録内容リストや当プラザHP、ひろしま情報 a-net から入手できます。
※申込書の作成が難しい場合はご相談ください。
2. 広島市まちづくり市民交流プラザへ申込み
当プラザへ、FAX、Eメール、郵送、窓口へ持参のいずれかで申込書を提出します。初めて申し込まれた団体や詳しいことを確認したい時には、当プラザより連絡をさせていただくことがあります。
 3. 当プラザから達人へ連絡・調整
紹介申込書の提出後、希望する達人へ当プラザから打診の連絡をし、紹介の可否を確認します。(連絡・調整には、1週間程度かかります。)
 4. 申込団体へ達人の連絡先をお知らせ
達人紹介の内諾が得られたら、達人の連絡先をお知らせします。達人との直接のやり取りのスタートです。速やかに正式な依頼の連絡を取りましょう。

まちづくりボランティア人材バンク達人を紹介してもらうには…

まちづくりボランティア人材バンクは「自分の知識や技術を生かしてボランティア活動をしたい」達人と「ボランティアに来てほしい、教えてほしい」団体・グループとをつなげるシステムです。

現在 150 名余りの達人が約 180 件のボランティア活動で登録しています。年間 240 件程度の達人紹介の申込みがあり、日程や活動内容等の条件が整った約 220 件が活動につながっています。

地域活動や手作りイベントなど市民の皆さんが活動する中で、「お願い!達人」という時は、お気軽にご相談ください。

1. 人材バンク紹介申込書の作成

どういった団体・グループが、いつ、どこで、誰を対象に、何をやる行事なのか、希望する達人を所定の申込書へ記入します。決まっていない項目は空欄のままで大

Interview 2

落語の講演 大声トリオ

人情噺から古典、創作物まで。 落語に魅了された三人が届ける笑いで幸せに

三人のアマチュア落語家で構成される「大声トリオ」。まとめ役を担っているのは、ぬりた家じゅん朝こと、大田彰さん。そして、秋風亭たかぶこと、藤田貴敏さん。備後家たに助こと、谷角勝さんです。

「12年くらい前、文化教室の落語講座に参加して、落語に魅了された私は、その時の高座の講師を務めていた秋風亭い朝師匠に弟子入りしました」と大田さん。その数年後に、同じ門下に入った藤田さんと仲良くなり、ユニットを結成。大声と、大きなジェスチャーでお客さんを喜ばせる事を楽しみたいとの思いを込めて、「大きな声」と名付けました。さらに、しばらくして同じ門下で、福山在住の谷角さんが加わって「大声トリオ」へと変わっていききました。

コロナ禍前は、藤田さんが勤める介護施設での慰問高座や、谷角さんが拠点構える福山でのアマチュア寄席に出演していましたが、コロナ禍で人前での高座を披露する機会が減少。もっと、たくさんの人に自分たちの落語を聞いて喜んでもらいたいと思い、令和5年6月に人材バンクに登録しました。11月には人材バンク発表会に出演、その後は、各地域のケアセンター、町内会で高座を披露しています。また、月1回、藤田さんが勤める介護施設で



▲ぬりた家じゅん朝(大田彰)さん

デイスサービスの利用者、近隣の住民を対象に開いているボランティアとレクレーションを合わせたイベント「ボラーレ」にも出演。落語には知的刺激により脳を活性化させる効能も

あり、笑いでひと時の安らぎや、幸せな気分を届けています。

「師匠には、落語を披露する場を増やして芸を磨きなさい、と常々言われています。コロナ禍が明け、落語を披露する機会も増やしたいので、もっとレパートリーを増やして、楽しんでもらいたいですね」と夢を語ってくれた大田さん。そのために通勤途中に大好きな古典落語を聞きながら覚えているそうです。また藤田さんは、動画サイトYouTubeでお気に入りの落語を見ながら、自分には無い他の落語家の芸を見て、自身が手掛ける創作落語にチャレンジしています。

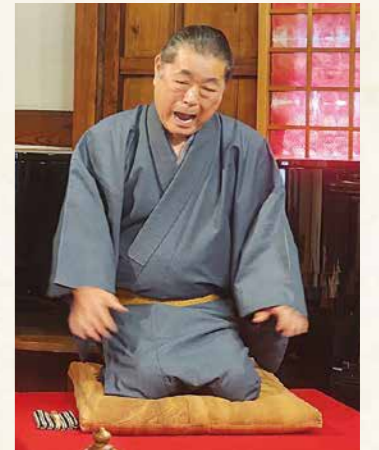
江戸時代に生まれ、現在まで脈々と受け継がれている話芸の一つ落語。人を笑わせ、幸せを運ぶ、そんな魅力に取りつかれた三人の、今後ますますの活躍を願っています。



▲大声トリオのみなさん



▲秋風亭たかぶ(藤田貴敏)さん



▲備後家たに助(谷角勝)さん

5. 活動・イベント等の準備と実施

実施に向けて、達人との十分な打合せを行いましょう。しっかり相談すれば、お互いに良いアイデアが生まれます。いよいよ、活動・イベントの実施です。

6. 活動報告アンケートのお願い

活動終了後、当プラザよりアンケートをお送りします。実施結果や感想、写真、配布資料等を報告してください。その後の紹介に大変役立ちますので、ご協力お願いします。

まちづくりボランティア人材バンク発表会

仕事や趣味などで得た知識・技術などを生かし、ボランティアとして、助言・支援指導などを行う方々が「まちづくりボランティア人材バンク」に数多く登録されています。当プラザでは、市民グループなどからのご要望により、達人たち(登録ボランティア)の紹介・あっせんをしています。毎月第4土曜日は「人材バンク発表会」の日。達人たちの得意なテーマで講座や催しを開催しています。どなたでもご参加いただけ

ますので、どうぞご来館ください。

日時/4月27日(土)、6月22日(土)、7月27日(土)
毎月第4土曜日 午後2時～3時半
※時間は変更になる場合がございます。
※テーマはプラザHPやチラシでお知らせします。
場所/北棟6階マルチメディアスタジオ(無料:要事前申込)

ボランティア紹介・登録などのお申込・お問い合わせは…

広島市まちづくり市民交流プラザ(合人社ウエンディひと・まちプラザ)
☎(082)545-3911 (082)545-3838

※当バンクは、政治、宗教、営利目的の活動での利用はできません。
※達人紹介は、団体・グループからの単発な活動に限ります。個人活動や長期継続活動への紹介はできません。
※達人は、実費弁償ボランティアとして活動します。交通費、資料代、材料費等の実費は、申込団体にご負担いただきます。